

かんがくいん
勸学院跡 (範囲確認調査)

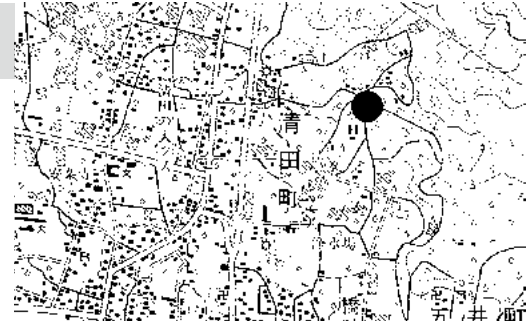
所在地 蒲郡市清田町木森・西観嶽地内
(北緯34度50分39秒 東経137度14分30秒)

調査理由 一般国道 23 号名豊バイパス

調査期間 平成 26 年 5 月

調査面積 100㎡

担当者 永井宏幸



調査地点 (1/2.5万「幸田」)

調査の経過 調査は国土交通省による一般国道23号名豊バイパス建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成26年5月に実施した。調査対象地は丘陵端部にあり、現況は旧果樹園などで、周辺には蜜柑の果樹園がひろがる。県教育委員会の有無確認調査の結果を受け、2×3m、1×2mの試掘坑を中心に総数26カ所を設定した。

立地と環境 勸学院跡は三河国司であった大江定基(寂照)の子孫定嚴が建立したと伝承のある平安時代の寺跡である。遺跡に南接する石山神社周辺の造成により、山茶碗や土師器が出土している。また、東方に隣接して6世紀代の円墳である権現山古墳が所在する。調査対象地付近の標高は55～73mである。

調査の概要 寺院跡の包蔵地として知られていた遺跡であったが、発掘調査による成果はなかった。寺院跡が存在するとすれば、丘陵端および山腹にあたる地区に寺域が点在する可能性もあり、現況で平坦面の確認できる箇所を中心に試掘坑を設定した。調査の結果、全26カ所の試掘坑において遺構は確認できなかった。石山神社に近い試掘坑(T.T.01)から弥生～古墳時代の土器片が1点出土した。これ以外に遺物の出土はなかった。

まとめ 調査対象地のほとんどが、近代以降に谷底を埋め造成された水田やその後果樹園の造成により地形を改変していることが調査によりわかった。今回の確認調査では寺院跡に関わる遺構と遺物は確認できなかったが、石山神社に隣接する付近から山茶碗などがまわって出土していること、五輪塔、宝篋印塔など墓地に関わる石造物が付近に点在していることを付記しておく。

(永井宏幸)



調査風景



T.T.01 完掘状況